小城市立桜岡小学校　令和８年度 学校だより　３１号

興譲館の梅

【学校教育目標】
やさしく、かしこく、たくましく
笑顔の花咲く　桜っ子の育成
～すべては子ども達の自信のために～

令和８年１０月２８日　文責：校長

小城ルーテルこども園との交流会

１０月２２日（木）の2，3校時に、５年花組が小城ルーテルこども園の年長組園児さんとの交流にいってきました。今後、５年月組、５ 年雪組も交流をしていきます。

いわゆる来年の６年生と１年生の間柄になることから、お互いに笑顔で顔合わせをしておくこと、次年度は最上級生ということを自覚することなどを目的として行われました。

５年花組の子どもたちは、年長児さんと「けん玉」「積み木」「読み聞かせ」「手遊び」「鬼ごっこ」「サッカー」などで楽しく交流することができていました。やさしく声をかけたり、しっかりと年長児さんの話を聞いてあげたりと、さすが５年生！と思うような場面が多かったことに、頼もしさを感じ、嬉しくなりました。

かけ算九九の大切さ　～算数の大きな土台をつくるために～

2年生の算数では、10月から「九九」の学習が始まっています。九九は、算数において非常に重要なステップであり、今後の学習の質を左右する大きな土台となります。3年生以上の桜っ子はバッチリ習得ができているでしょうか。

では、なぜ九九の習得がそれほど大切なのか、主なポイントを3点お伝えいたします。

①今後の算数・数学すべての基礎になるため

3年生で習う「わり算」をはじめ、「2桁以上のかけ算」「分数」「小数」、高学年や中学校での「割合」「方程式」に至るまで、すべての計算の根底に九九があります。九九を確実に身につけておくことで、新しい単元に入ってもつまずきにくくなります。

②「思考力」に集中できるようにするため

かけ算の計算自体が自然と頭に浮かぶ状態（自動化）になると、計算に余計な脳のエネルギーを使わずにすみます。その結果、文章題の意味を考えたり、複雑な問題を解いたりする「思考する時間」にしっかりと集中できるようになります。

③「できた！」という大きな自信につながるため

繰り返し練習して9の段までスラスラ言えるようになる経験は、お子様にとって大きな達成感となります。「努力すればできるようになる」という成功体験は、算数への苦手意識をなくし、今後のいろいろな学習意欲を支える原動力になります。

九九の定着には、学校での学習に加え、ご家庭での日々の反復練習（順に唱える、逆に唱える、クイズ形式で答えるなど）がとても効果的です。お子様が楽しく前向きに取り組めるよう、詰まったり間違えたりした際にも詰問せず、励ましていただきますようよろしくお願いいたします。

子どもたちの表彰　おめでとう！